

- 10月13日、陸側遮水壁のK排水路交差付近（下流部）の測温管150-7Sにて、地中に3m（地表下1.0m～4.0m付近）の区間で局所的に0℃を超過している状態が継続されていることを確認しました。

<[2021年10月28日 お知らせ済み](#)>

- 当該交差部では凍結による膨張対策として補強していますが、クラックなどの発生により、凍結範囲に水が流出している可能性があるかと推定し、11月2日～3日にかけて、K排水路内の補強部付近を調査した結果、補強部上流側でクラック1箇所および補強部下流側で地下水の流入を2箇所確認しました。

<[2021年11月1,4日 お知らせ済み](#)>

- 11月10日～12日にかけて実施した陸側遮水壁内側の地盤の掘削調査の結果、深度-2.7m付近より深部では地中温度が0℃以下であること、および、掘削調査範囲では地下水が無いことを確認しました。

<[2021年11月15日 お知らせ済み](#)>

- 11月15日～21日にかけて実施した陸側遮水壁外側の掘削調査の結果、測温管160-7S付近では浅部で凍結を確認し、一方で、測温管150-7Sの南側に位置する軽油タンク基礎付近の陸側遮水壁外側浅部で、凍結していない箇所が存在することを確認しました。

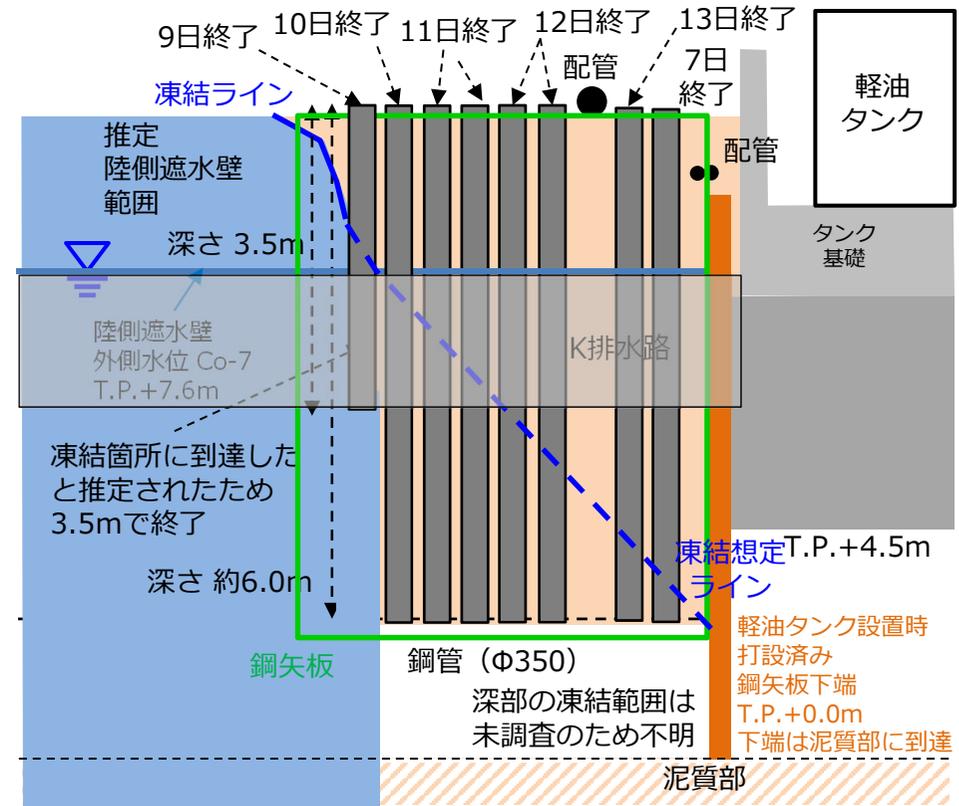
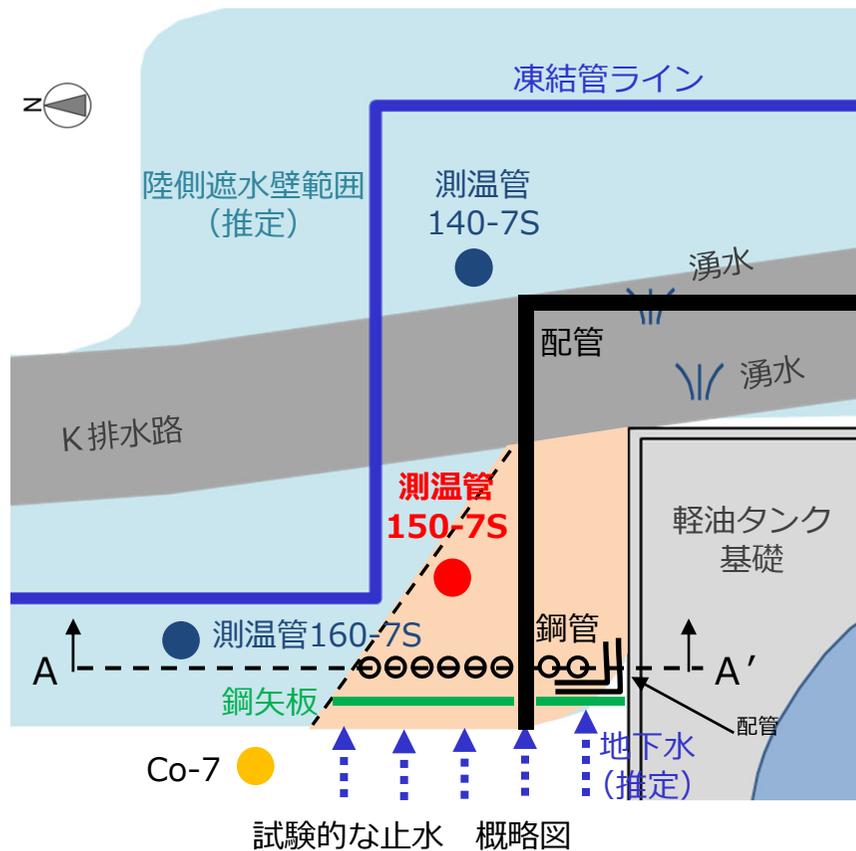
- また、11月2日～3日のK排水路内の調査で湧水を確認したことを踏まえ、地下水がK排水路内へ流入する過程において、陸側遮水壁の凍結範囲の一部を融解し、その影響で測温管150-7Sの温度を上昇させている可能性があるかと推定しました。
- このことから、測温管150-7S外側（山側）に試験的に止水壁を設置することで地下水の流入を抑制し、測温管150-7Sの温度変化およびK排水路内の地下水流入の状態を確認することとし、12月6日から試験的な止水のための鋼管設置工事を開始いたしました。

<[2021年11月25日,12月6日 お知らせ済み](#)>

- 本日（12月13日）、測温管150-7Sの山側における鋼管設置作業（8本）が完了しました。
- 今後、測温管150-7Sの温度やK排水路の湧水量などを監視し、試験的な止水の効果を確認してまいります。これらの監視項目に顕著な変化が見られない場合、止水効果を高めるため、鋼矢板の追加設置を行います。
- なお、当該測温管の温度は低下傾向が継続して見られており、12月13日（7時現在）では、全深部で0℃以下となっています。また、陸側遮水壁の内外水位差が十分に確保されていること、サブドレンの汲み上げ量のトレンドに有意な変化がないことから、遮水性は確保していると評価しています。

# 1. 試験的な止水（鋼管設置）について

- 本日（12月13日）、計画していた8本の鋼管設置が完了しました。
- 一番北側の鋼管設置において、削孔水の送り温度より戻り温度が低下したことから、鋼管が凍結箇所到达了と推定し、3.5mで建て込みを終了しました。
- 北側2本目以降、一番北側の鋼管設置時と同様の反応が見られないことから、当初の計画通り、6mの鋼管建て込みを行いました。
- さらに止水効果を高める必要があると判断した際は、鋼矢板を設置してまいります。

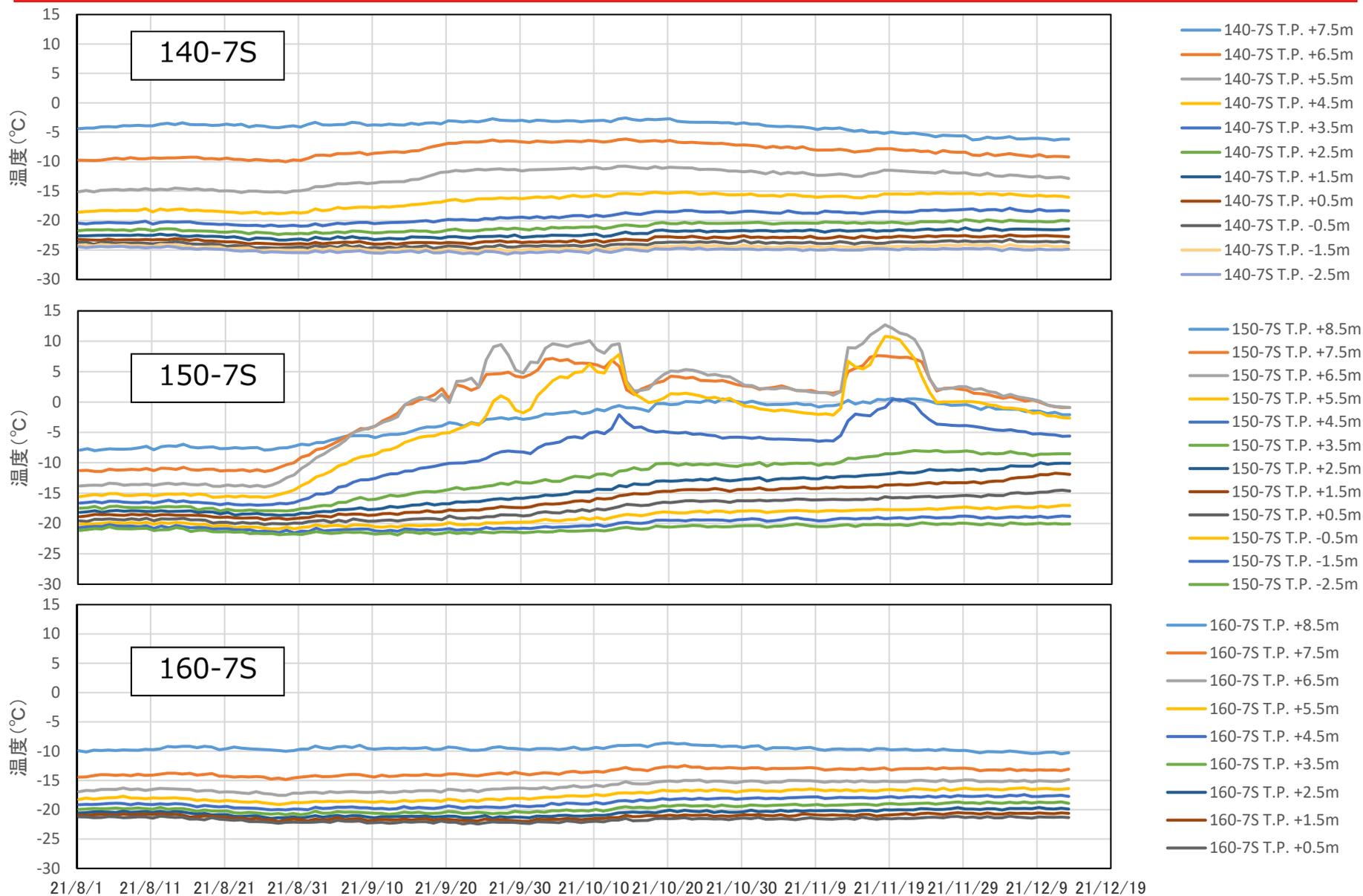


※鋼管設置深さは陸側遮水壁の凍結状況に応じて調整を行う。

## 2. 止水期間中の監視項目と頻度

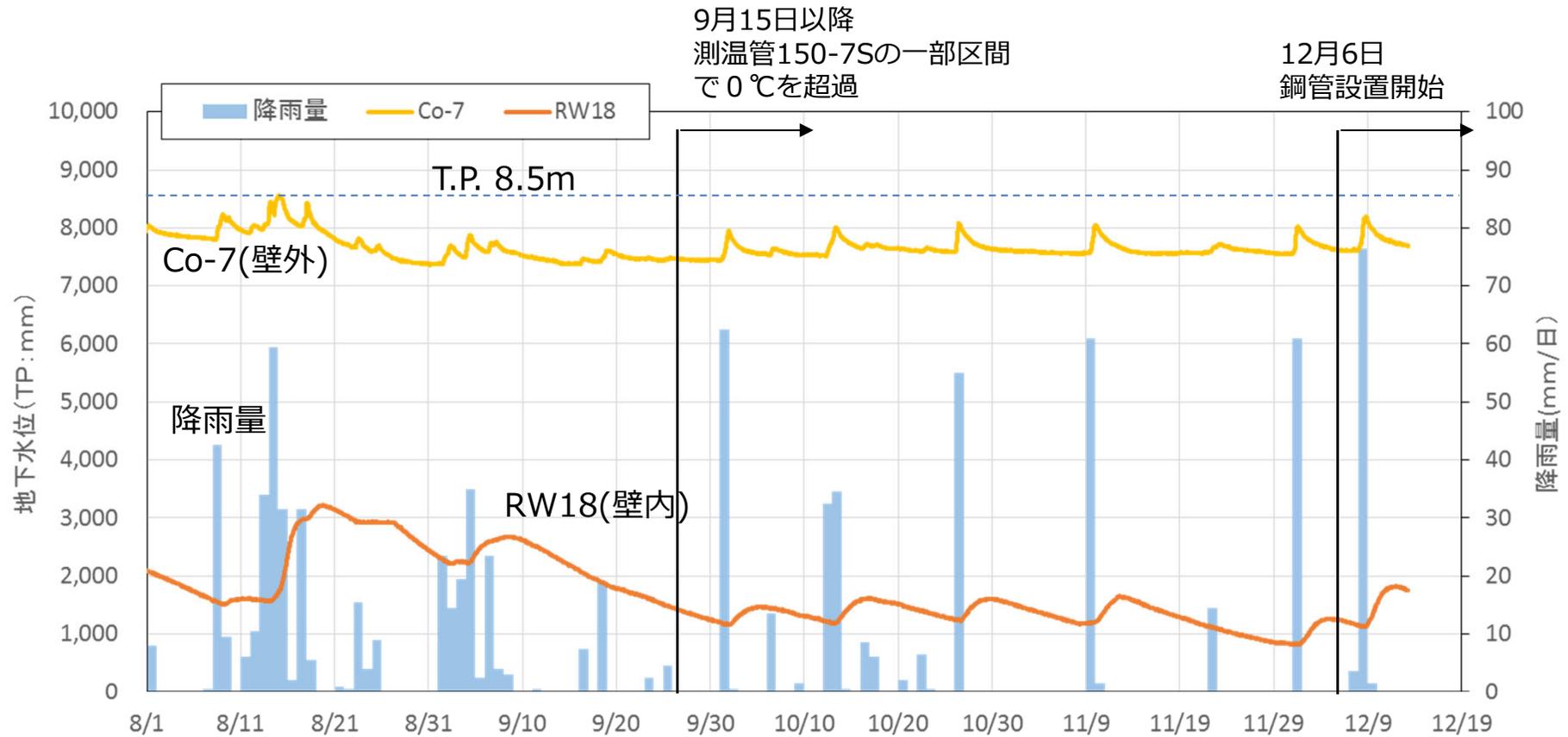
対象設備	監視項目	監視方法	監視頻度
測温管140-7S、150-7S、160-7S	地中温度	計測値	2回/日
観測孔Co-7、RW18	地下水位	計測値	2回/日
No.4、No.5中継タンク	汲上量	計測値	1回/日
K排水路(内部)	外観	現地目視	1回/日
	湧水量, 温度, 濁り	現地計測	2回/日
調査掘削箇所(内側)	地盤状態	現地目視	1回/日
	地中温度	現地計測	1回/日
軽油タンク基礎・防油堤	外観	現地目視	1回/日
	変位	現地計測	1回/週
共用プール周辺地盤	外観	現地目視	1回/日

# 参考) 測温管150-7S及び周辺測温管の温度経時変化 (表層抜粋)



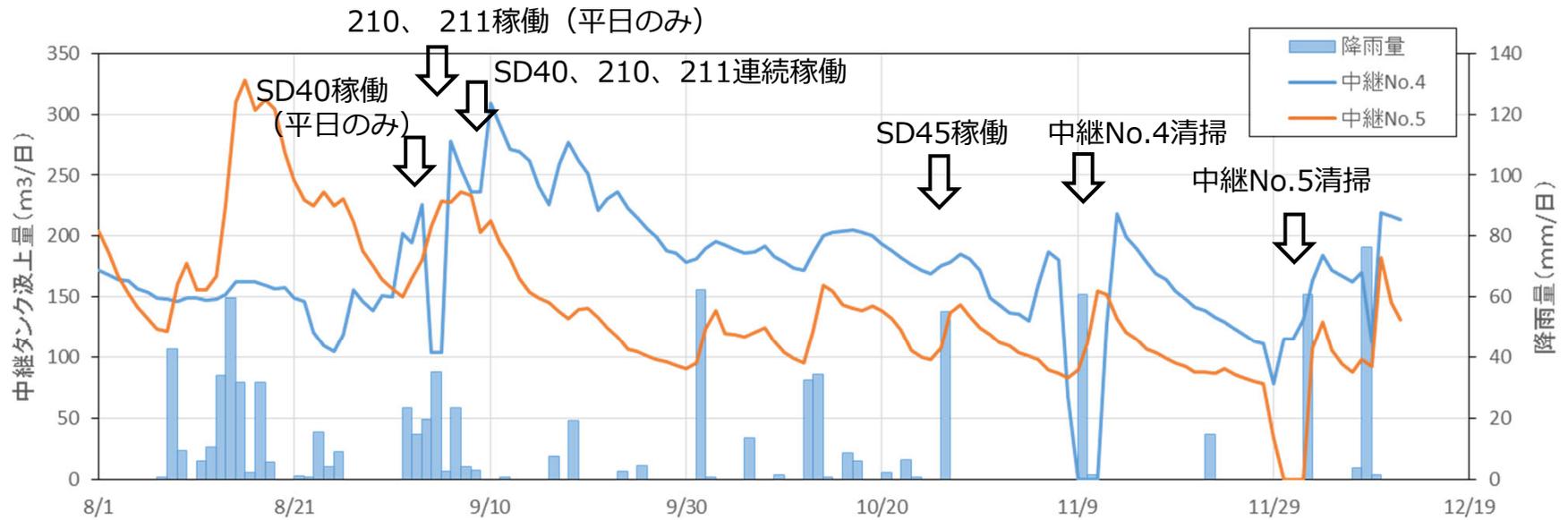
(12/13 7:00時点)

参考) 監視項目 陸側遮水壁内外水位差と降雨量の経時変化



陸側遮水壁内外水位の経時変化 (12/13 7:00時点)

# 参考) サブドレンNo.4、No.5中継タンクの汲上量と降雨量の関係



➤ 施工期間中、稼働状況を含めた汲上量を継続監視



3、4号機山側平面図